

# 効果的な施策の展開に向けて ～点検ツールの活用事例集～

令和5年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業  
地域包括ケアシステムの構築状況の自治体点検ツール（仮称）の活用に関する調査研究

令和6年3月  
株式会社日本総合研究所



## はじめに

P.1

本事例集作成の背景

厚生労働省からのメッセージ

## 点検ツールのオススメ活用場面

P.3

- ① 委託先との認識共有
- ② 計画・事業の振り返り・検討
- ③ 新任者の理解促進

## 点検ツールの活用事例

P.5

### ① 委託先との 認識共有

#### 北海道北見市

委託先が主導した会議体において、「自分が市長になったつもりで」点検を行い、見直しの視点を整理

#### 熊本県山都町

全ての関係部署とともに検討し、新たな施策の展開につなげる

### ② 計画・事業の 振り返り・検討

#### 宮城県美里町

職員同士による度重なる議論をふまえて、「ありたい姿」を明確化

#### 神奈川県横須賀市

トップマネジメント層を巻き込み、8課が共通認識を持ちながら点検・振り返りを実施

#### 熊本県御船町

地域包括ケアシステムを担う関係課とのワークショップを通じて施策体系を再構築

### ③ 新任者の 理解促進

#### 北海道登別市

新たに着任した職員が、計画を策定するために必要な視点を点検ツールから学んだ

## 都道府県のみなさまへ

P.17

## 参考情報

P.18

## 本事例集作成の背景

- 地域包括ケアシステムの更なる深化・推進、そして、高齢者人口がピークを迎える2040年を見通し、地域共生社会への発展に向けた効果的な施策を展開していくためには、各保険者（市町村）において、地域包括ケアシステムの構築状況を振り返り・点検し、地域ごとの実情をふまえ、優先順位を付けて、段階的に施策や事業に取り組んでいく必要があります。
- 「効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール」（以下、点検ツールという。）は、各保険者（市町村）が、地域包括ケアシステムが目指す「目標」の達成に向けて、介護・福祉分野やそれ以外の資源を活用した施策という「手段」が、十分な効果をあげているかを、できる限り客観的な指標を参照しつつ、点検する枠組みと視点を提供するものとして、作成されました。
- 第9期介護保険事業計画策定の基本指針において、市町村介護保険事業計画の達成状況の点検にあたり、「点検ツールの活用が可能」と明示されたこともあり、一部の保険者（市町村）で活用され始めています。一方で、保険者（市町村）からは、「点検ツールの意義や使い方がわからない」、「使い始めるきっかけがない」、「高齢者・介護所管部署以外の他部署にどのように声掛けしてよいかわからない」といった声が挙がっており、活用の意向がある場合にも、このような理由から活用に至っていないことが明らかとなりました。
- 本冊子は、地域包括ケアシステムの構築状況の振り返り・点検にあたり、点検ツールが特に有効に機能する場面や、各保険者（市町村）における多様な活用事例を整理しています。
- 本冊子が、各保険者（市町村）において、地域包括ケアシステムの構築状況の振り返り・点検に取り組む際の一助となれば幸いです。

## 実際の点検ツール

The image shows a screenshot of a point-check tool for 'Social Participation and Care Prevention'. The tool is divided into four main sections:

- 1. この視点に関連して現在行っている取り組みを洗い出す**  
- Initially, check if current activities are being carried out for this perspective. Record them as they are, without evaluating them.  
- Record the start and content of activities, and whether they are being carried out as planned. (If not, record the reasons.)
- 2. この視点について、目指す姿がどのようなものかを振り返る**  
- Reflect on what the target state is for this perspective. Record it as it is, without evaluating it.  
- Record the target state, the current state, and the reasons for the gap between them.
- 3. 目指す姿の実現状況を仮で評価する**  
- Evaluate the current state of the target state for this perspective. Record it as it is, without evaluating it.  
- Select one of the target states and evaluate it. Record the evaluation results and the reasons for the gap between the current state and the target state.
- 4. 解決すべきと考えられる要因を追究**  
- Investigate the reasons for the gap between the current state and the target state. Record the reasons and the measures to be taken.

Annotations in green boxes highlight specific features:

- 点検の視点やその解説を、各シートに分かりやすく記載** (Point check perspectives and their explanations are clearly recorded on each sheet.)
- 点検の視点に沿った点検結果の記入欄を用意** (Prepared input fields for point check results following the perspective.)
- 一部に選択肢形式を設けるなど、記入しやすい様式** (Provided with a user-friendly format, including multiple-choice options in some parts.)
- 記入にあたっての解説や参考情報を表示する機能を組み込み** (Built-in function to display explanations and reference information when entering.)

- 事例集をお手にとって頂いたみなさま、ありがとうございます。
- 点検ツールは、第9期介護保険事業計画策定指針（案）において、これまでの振り返りを行う際に有効な手法としてご紹介させていただきました。各市区町村のみなさまには、実際に計画策定に活用された、あるいは、今回は別の方法で振り返りを行ったので第10期の策定で使おう、というところなど、様々であろうかと思えます。
- ただ、この点検ツールは、計画策定時に使うためだけに作成したものではなく、むしろ日常業務での課題解決や事業の振り返りの際にも使って頂きたいものであり、この事例集では、点検ツールを実際にどういった場面で活用されたのか、代表的な3つの場面を中心にご紹介しています。
- 各事例で共通しているのは、課内の職員から始まり、庁内の関連部署の職員、そして地域の関係者も含めて、何を目指しているのかの「ビジョン」を起点に、この事業でどのような効果を期待しているのか、そして実際に機能しているかを振り返りながら、この点検ツールをベースとして話し合っていく、地域課題の「解像度」を高く「見える化」して、その課題への対応の仕方や考え方を整理・確認していく動きが展開されていることがわかりいただけると思います。
- そういった意味で、点検ツールは話題提供のたたき台であって、ワークシートの空欄を「綺麗な言葉」で埋めて整えることよりも、書いて手が止まってしまう部分こそを「課題」として捉え、関係者で話し合っていくことが最も重要です。話し合った結果、方向性が共有されていけば、シートは全て埋まらなくとも、目的は達成しているといっても過言ではないと思います。
- また、都道府県のみなさまには、この点検ツールを、管内市区町村にぜひご紹介いただくとともに、ときには一緒に利用していただき、地域課題の把握や、支援していくポイントの検討等にご活用いただければと思います。
- 今後、2025年から2040年に向けて、地域包括ケアシステムの深化・推進により、地域共生社会の実現を図っていくにあたっては、各市区町村において、少ない職員数のなかで、地域の様々な関係者と協働して、多様な価値観をもつ多くの高齢者の暮らしを、「まちぐるみ」で支え合うことが不可欠であり、そのためにも地域の実情に応じた「地域デザイン機能」の強化は極めて重要です。
- 地域包括ケアシステムの構築について、市区町村では、実感が湧かないという声は多く聞かれますが、そうした場合に、地域資源整備や事業の「考え方」を、再度、地域の高齢者はもとより、関係者や行政内部で、共有・確認することで、意義を再確認するような、幅を広げた活用の可能性も考えられます。
- 各市区町村のみなさまには、日々ご多忙とは思いますが、新たな計画期間に入ったタイミングで、今回の3つの場面を参考に、ぜひこの点検ツールをお使いいただくことで、新たな気づきが生まれることを願っております。

## 1 委託先との認識共有

- 地域包括支援センターや社会福祉協議会等、個別の施策・事業を委託している法人等とビジョンを共有し、ビジョンにもとづく取組を推進していく際の目線合わせに活用できます。
- また、庁内他部署との横断的な検討や、多職種による議論の場での活用も効果的です。



委託先との認識共有

活用した  
自治体担当者からの声

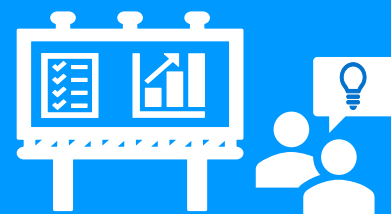
以前関係者が集まり意見交換を行った際は、なかなか意見が出なかったが、今回は「点検ツールに記入する」という1歩目がわかりやすく、議論しやすかった。

委託事業のため、中には「与えられた事業」と捉えている職員もいた。点検ツールの活用により「そもそも何を目指していた事業だったか」、「担当圏域の将来の生活像はどのようなか」を意識する契機となった。

該当事例 ⇨ P.5北海道北見市、P.7熊本県山都町

## 2 計画・事業の振り返り・検討

- 介護保険事業計画を「ビジョン型」とするために、これまでの事業計画の達成状況や次期計画で取り組むべき課題の洗い出し等、中長期的な見直しに活用することができます。
- また、個別の施策・事業の目指す姿や、その施策・事業の中で特に重視すべき課題を短期的に検討していく際に効果的です。



計画・事業の  
振り返り・検討

活用した  
自治体担当者からの声

地域全体のケアシステムの構築にあたっては施策・事業間のつながりが重要であり、点検ツールの活用により、それぞれの施策・事業のつながりと、つながりの観点からの課題が見える化することができた。

文字で書き起こしてみるとわかりやすく、「目的に対してやっていることを並べてみたら、思っていたよりも色んなことをやっていた」ということを改めて俯瞰することができた。

該当事例 ⇨ P.9宮城県美里町、P.11神奈川県横須賀市、P.13熊本県御船町

### 3

## 新任者の理解促進

- 人事異動により前任者から引き継いだ施策・事業の全体像やその位置づけを理解する際に活用することができます。
- また、新しく着任する職員に対して事業の目的や全体像を説明する際に効果的です。



活用した  
自治体担当者からの声

新たに着任した職員を含めて振り返りを行うことで、新任者が「各担当者がどのようなことを思い、事業を動かしているか」や「事業ごとのつながり」を早い段階で理解することができた。

初めて計画策定に携わったが、点検ツールを活用することで、どのようなロジックで考えていけば良いか、理解することができた。

該当事例  P.15 北海道登別市



# 北海道北見市

委託先が主導した会議体において、  
「自分が市長になったつもりで」点検を行い、見直しの視点を整理

- ◆ 地域支援事業を効果的に実施するため、医療・介護連携支援センター（在宅医療介護連携推進事業）のコーディネーターの発案のもと、地域包括支援センター職員・認知症地域支援推進員・生活支援コーディネーターを交えた連絡会議を立ち上げた。
- ◆ 「地域の目指す姿」に対して、現在実施している地域包括支援センターの事業について、「実現していない要因」・「これまでの成果」・「今後活かせること」を議論し、今後の事業推進にあたっての見直しの視点を整理した。



地域包括支援センター職員等を  
対象とした研修会



「こういう北見市になったら良い」というイメージを具体化する話を、地域包括支援センターと活発にやり取りできるようになった。



行政と委託の地域包括支援センターの双方をつなぎ、認識をすり合わせ、目指す姿を共有するものとして点検ツールは有効と感じた。



担当者の声

## DATA

人口	▶ 112,041人	※令和5年9月30日住民基本台帳人口
高齢化率	▶ 34.5%	※令和5年9月30日住民基本台帳人口
面積	▶ 1427.4 km <sup>2</sup>	
担当部署	▶ 保健福祉部 地域包括ケア推進担当	



## 点検・振り返りの「あゆみ」

「自分が北見市長になったつもりで」をコンセプトに、地域包括支援センター担当者が点検ツールのシートに記入



- ・地域支援事業を効果的に実施するために設置した連絡会議における議論の材料として、点検ツールを活用。
- ・まずは、地域包括支援センターの担当者が、4シート（社会参加、生活支援、認知症支援、サービス整備）の中から1つを選び記入。



委託先との認識共有



POINT

委託先が主体となって活用

連絡会議の場で、記入したシートをもとにワークショップを開催

- ・記入したシートの内容を各担当者から発表のうえ、「地域の目指す姿」に対する取組について、「実現していない要因」、「これまでの成果」、「今後活かせること」をグループで話し合った。
- ・連絡会議は民間主導の実施だが、市担当者もオブザーバーとして参加。

地域包括支援センターの実施する事業の見直しの視点を整理

- ・ワークショップの実施を通して、課題認識の共有及び既存事業の振り返りが完了。それらの結果を踏まえて、各地域包括支援センターの実施する事業の見直しの視点を整理し、今後の事業推進に活用予定。

## 活用の「きっかけ」

- ・地域支援事業を効果的に実施するため、医療・介護連携支援センター（在宅医療介護連携推進事業）のコーディネーターの発案で、市内7つの地域包括支援センター（全て委託）の職員と認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーターを交えた連絡会議を、令和5年度から立ち上げた。
- ・連絡会議では、地域包括支援センターの取組をより効果的なものとするため、職員の事業に対する考え方のブラッシュアップと市との課題認識の共有を目的とし、議論に際して点検ツールを活用した。

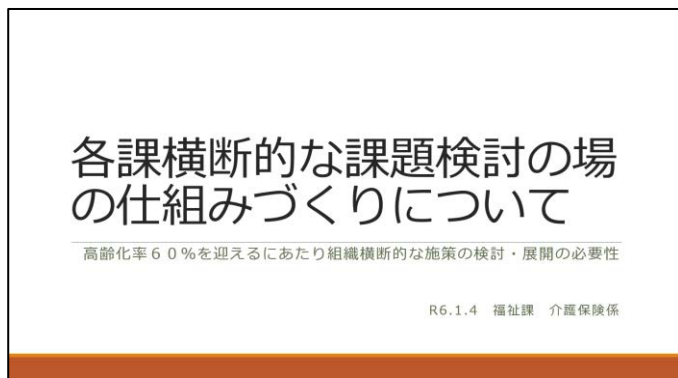
## 「だれ」と取り組んだか

- ・医療・介護連携支援センターが中心となり、市がオブザーバーとして参加する形で、点検を進めた。
- ・元々、医療・介護連携支援センターと地域包括支援センターはあまり面識がなかったものの、グループワーク等を行う中で積極的な意見交換ができ、市・地域包括支援センターの日頃の連携の強化にもつながっている。

# 熊本県山都町

## 全ての関係部署とともに検討し、新たな施策の展開につなげる

- ◆ 熊本県山都町では、第9期介護保険事業計画の策定にあたり、点検ツールを活用して、各事業の担当者による振り返りを行った。
- ◆ 各事業の振り返りを進めていく中で、今ある課題を解決していくためには、高齢者施策の所管部署だけではなく、組織横断的な検討が必要だと気付いた。
- ◆ 点検ツールの活用をきっかけに、地域における重要課題の解決に向け、庁内複数部署で連携して検討を進めている。



関係部署に対する、組織横断的な検討の必要性を説明



健康づくり係や情報係、生涯学習係とのICT利活用に関する意見交換



計画策定委員会の場で手元に点検ツールがあることで、「これだけ考えた」という安心感があった。

自分たちが考える課題と、委員の思いや困っていることのギャップを理解しやすくなった。



担当者の声



組織横断的な検討体制の構築はとても大変だったが、検討すること自体が職員の人材育成にも繋がること、単一部署による課題検討では最大限の効果が得られないこと等を実感できた。



### DATA

人口	▶ 13,346人	※令和5年10月1日住民基本台帳人口
高齢化率	▶ 51.4%	※令和5年10月1日住民基本台帳人口
面積	▶ 544.8 km <sup>2</sup>	
担当部署	▶ 福祉課 介護保険係・高齢者支援係	

## 点検・振り返りの「あゆみ」

### 事業担当者による 点検ツールを活用した事業の振り返り

- ・計画策定にあたり「目指す姿」を明確にするため、「共生社会づくり」、「サービス整備」、「住まい・移動」、「社会参加・介護予防」の4項目での点検を実施した。



### 組織横断的な検討に向けた準備

- ・振り返りを進める中で、今ある課題を解決するためには組織横断的な検討が必要だと気付いた。そのための準備として、点検ツールを参考に、課題を洗い出すための検討用シートを作成した。



POINT

複数部署での検討に活用

### 庁内の複数の関係部署との意見交換

- ・検討用シートを活用し、生涯学習係や健康づくり係、防災係、商工観光係、企画係、情報係、山の都づくり推進室、農業員会、課税係等と既存の取組事項・課題を洗い出し、組織横断的な取組によって達成したい目標を設定した。

### テーマごとに今後の進め方を検討し、共通認識を持ちながら推進する

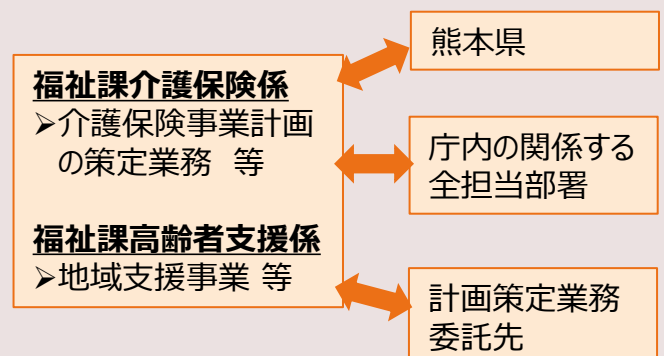
- ・社会参加や移動、ICTの利活用等、組織横断的に取り組んでいきたいテーマに関して、各関係部署と今後どのように施策を推進していくのかを検討し、共通認識をもちながら事業を推進していく。

## 活用の「きっかけ」

- ・第9期計画の策定にあたり、担当者は第8期計画の評価を試みたが、計画に基づいて事業を推進している感覚を持ちにくく、どう評価したらよいか悩んだ。
- ・熊本県から点検ツールの利用を推奨されたことをきっかけに、まずは事業担当者だけで点検ツールを記入して振り返りを行ってみようとして着手した。

## 「だれ」と取り組んだか

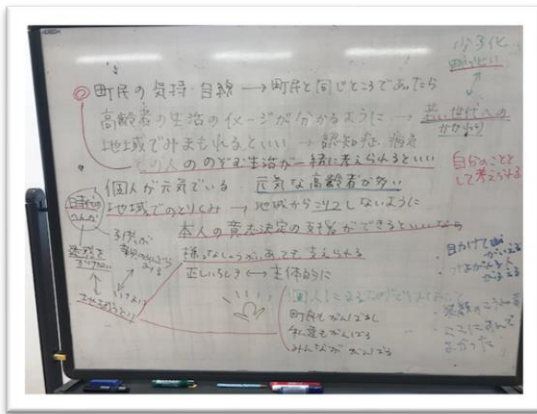
- ・福祉課介護保険係を中心に着手。
- ・点検を進める中で、庁内関係部署や熊本県・計画策定業務委託先と連携。



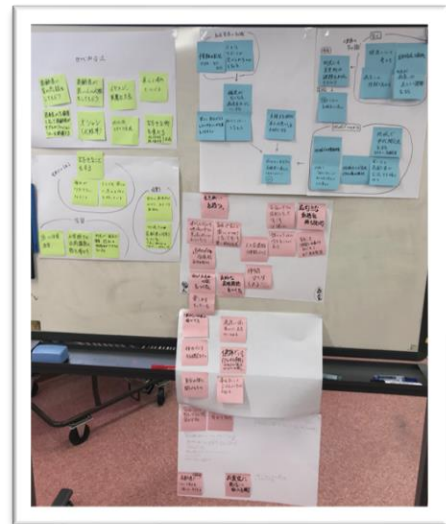
# 宮城県美里町

## 職員同士による度重なる議論をふまえて、「ありたい姿」を明確化

- ◆ 宮城県美里町では、第9期計画の策定にあたり、点検ツールを活用した振り返りを実施。点検を進める中で、そもそも「美里町のありたい姿」について、職員だけではなく、庁内外の関係者とも話し合いがあまり出来ていない状況だと気付いた。
- ◆ まずは、長寿支援課の職員による理解を深め、「ありたい姿」の議論を進めるべく、勉強会やグループワークを繰り返し行い、その結果や過程を策定委員会に提示した。
- ◆ そして、庁内だけではなく、ケアマネジャーや介護事業者等の庁外の関係者との議論をとおして、「美里町のありたい姿」を共有するとともに、計画策定や個別施策・事業の実施方針の検討につなげた。



「どんなまちにしたいか」を職員同士で議論



課内でのグループワーク

これまでは事業の中身を話すことが多かった。点検ツールを活用することで、事業から一旦離れて目標や効果、そもそもどうあると良いかという話し合いができて良かった。

担当者の声

職員から「こういう町になってほしい」ということを直接聞くことができた。一人ひとりがよく考えているのを実感し、彼らの意見を取り入れた計画を作りたいと思った。

### DATA

- 人口 ▶ 23,241人 ※令和5年10月1日住民基本台帳人口
- 高齢化率 ▶ 36.9% ※令和5年10月1日住民基本台帳人口
- 面積 ▶ 74.99 km<sup>2</sup>
- 担当部署 ▶ 長寿支援課 包括ケア係



## 点検・振り返りの「あゆみ」

### 包括ケア系の担当がまずはシートを記入してみた

- ・全シートの記入が難しかったため、「リハビリ」・「社会参加」のテーマに限り、シートへ記入。
- ・点検ツールへの記入を進めていくうちに、課の中で「美里町をどんな町にしていきたいか」を共有しないと、ビジョン型の計画策定が難しいことに気づいた。



### 課内で勉強会・グループワークを開催し、職員たちの思いを捉えた💡

- ・まず、「計画策定で大事にすること」についての勉強会を開催。次に、各職員が「美里町のありたい姿」を自由に話す場を設け、その2つの結果をまとめ、「どうしてそういう意見が出たのか」を考えるグループワークを行った。「これが大事に思ったのはこういう理由だよね」、「これっていいよね」といった話をとおして、職員たちの思いを捉える試みを行った。

### グループワーク等の過程や点検結果を策定委員会に共有し、賛同を得た

- ・職員が考えた計画の中心となる理念的なビジョンやその策定過程を策定委員会に共有した。委員からも「ぜひこれで進めてほしい」といった反応を得た。

### 庁内外のケアマネジャーや介護事業者等との振り返りを実施💡

- ・「9期計画を考えよう」というテーマで、庁内外のケアマネジャー、介護事業者、薬局などとの振り返りを実施。※どのような意見があったかを追記※
- ・計画の策定だけでなく、その後の個別施策・事業の運営に関しても、「ありたい姿」にもとづき、できることを検討。

#### 💡 POINT

職員たちの思いにもとづく「ありたい姿」を、  
庁内外の関係者に共有

## 活用の「きっかけ」

- ・「第9期介護保険事業計画を何とかしたい」という思いから、令和4年度モデル事業に手上げし、点検ツールを活用した振り返りを実施し始めた。
- ・点検ツールを活用することで、現在実施している事業や計画策定に足りないところに気づくというきっかけとなった。

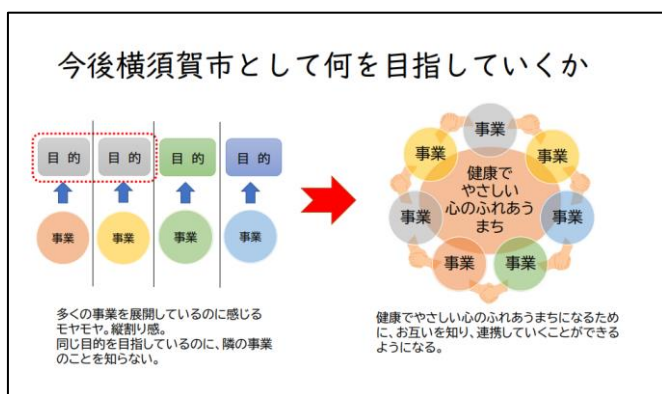
## 「だれ」と取り組んだか

- ・長寿支援課の組織として直営で設置している地域包括支援センター（包括ケア系）が中心となり、生活支援体制整備事業を委託している社会福祉協議会とともに、点検を進めた。
- ・点検結果は策定委員会や介護事業者などの庁外の関係者にも共有しながら、計画策定に向けた議論を深めていった。

# 神奈川県横須賀市

## トップマネジメント層を巻き込み、 8課が共通認識を持ちながら点検・振り返りを実施

- ◆ 神奈川県横須賀市では、組織改編により計画策定経験のない部署が策定業務を行うことになったことや、ビジョン型の計画のイメージを掴みづらかったこと、地域包括ケアシステムの浸透度合いを測る指標がなかったことから、点検ツールを活用して検討することにした。
- ◆ トップマネジメント層を巻き込むことから始め、その後、他部・他課を含めた総勢8課54名で構成される12個のワーキンググループを組成し、分野ごとの議論を深めていった。
- ◆ 点検・振り返りにより抽出した課題は計画に反映することができ、また、点検・振り返りを共同して実施することで、他部署との関係性の構築にもつながった。



点検結果を部課長級に説明

**事務職に加えて様々な専門職が参加した。それぞれの参加者が自分ごととして事業を捉え、顔の見える関係を築くことができた。**

**以前「ビジョン型の計画を作る」ための意見交換会を開催した時は意見が出にくかったが、「点検ツールに記入する」ことで第一歩を踏み出しやすかった。**

担当者の声

### DATA

- 人口 ▶ 384,663人 ※令和5年10月1日住民基本台帳人口
- 高齢化率 ▶ 32.5% ※令和5年10月1日住民基本台帳人口
- 面積 ▶ 100.8 km<sup>2</sup>
- 担当部署 ▶ 民生局 福祉子ども部 介護保険課

## 点検・振り返りの「あゆみ」

### トップマネジメント層との認識共有

・第9期介護保険事業計画の策定にあたり、関係する多くの部署に地域包括ケアシステムの構築に向けた計画策定を「自分事」として捉えてもらうため、トップマネジメント層（部課長級）を巻き込むところから始めた。



 POINT  
トップマネジメント層を  
序盤から巻き込む

### 他部・他課と協働のワーキンググループによる検討

・他部・他課を含めて8つの課からワークシートに関するメンバーを集め、12個のワーキンググループを組成して議論を深めた。初めに「何のために行うか」、「地域包括ケアとは何か」、「点検ツールの活用を通して何を目指すか」の認識を共有したことで、他部署との連携も円滑に進めることができた。

### 振り返りで把握した課題を第9期介護保険事業計画に反映

・点検ツールの活用や保険者機能強化推進交付金等の指標の確認を通じて把握した課題を、市として重点的に対策すべき課題として計画に反映した。

### 今後の展望

#### 計画期間における点検・振り返りの流れを醸成

・計画期間中に点検ツールを活用した振り返りを行い、次期計画策定に活かしていきたい。

## 活用の「きっかけ」

- ・今までは課単体で事業を考えることが多かったが、保健と予防の一体化や、総合事業のデザインなどの動きを踏まえ、どうやって課をまたいで考えたらよいか関心を持っていた。
- ・担当者が研修に参加したり、点検ツールの話を聞いたりする中で、庁内横断での取り組みを進める機会として点検ツールを活用してみようと考え、トップマネジメント層に提案した。

## 「だれ」と取り組んだか

- ・計画の主管課である介護保険課が中心となり、関係課に呼びかけて、12分野のワーキンググループを組成した。
- ・各分野で複数の職位・職種が参加し、8課から54名が集まった。事務職に加え、医師や保健師、歯科衛生士、栄養士などの専門職も参加した。



# 熊本県御船町

## 地域包括ケアシステムを担う関係課とのワークショップを通じて 施策体系を再構築

- ◆ 熊本県御船町では、各施策を誰のために行うのかを分かりやすくしたい、計画が進んでいるか検証可能なものにしたという思いで点検を実施。
- ◆ 全ての関係課に声をかけ、本ツールを活用してワークショップを行ったところ、「各施策は何のためにやっているか」という視点で認識合わせをしやすくなった。また医師会など庁外の連携先とも施策検討のプロセスを共有することができた。
- ◆ 点検結果を踏まえて施策体制を再構築した上で、ロジックモデルを用いて各施策の取り組みと期待する効果、目指す目標との関係性を具体的に整理し、計画策定につなげた。

**担当者の声**

点検ツールを活用してワークショップを行うことで、担当者どうしの規範的統合が進んだと実感しました。

点検ツールは使用方法が限定されていないので、議論したことをまとめる「議事録」としてのイメージで使ってみました。

**セオリーオープンチェンジの概要とワークショップにおける作業イメージ**

1. セオリーオープンチェンジ（以下「ToC」という。）の概要  
 これまで行ってきた施策や個々の事業が「地域ビジョン」の実現にどう貢献しているか（この手段で本当に目的を達成できるのか）といった視点で見直しを行う政策形成手法の一つです。  
 ToCの実施により、課題解決のための無駄をなくし、より効率的に行政課題の解決を図ることができます。

【セオリーオープンチェンジによる施策見直しの例】

担当課	福祉課	まちづくり課
課題	要介護認定率が上昇しているため、介護予防事業を強化しているが、参加者数が伸びない。	生活基盤整備のため公共交通空白地域を解消する必要がある。
真因	交通手段がないため、介護予防事業の開催場所まで行けない。	利用者が少ないため公共交通の担い手がいない。
従来の課題解決	●●交付金を財源として、新たに送迎サービスを設置	公共交通を拡充し、事業者に対し、自主財源で赤字補填を行う。
ToC実施による課題解決	●●交付金を財源として、送迎の為の公共交通空白地域に誰でも利用できる個別の送迎サービスを実施することで、公共交通空白地域を解消し、介護予防事業の参加を促進。 それぞれの主管課で行政課題に向き合う場合と比べ、低コストで確実な課題解決が図られる。	

2. ワorkshopにおける作業イメージ  
 別紙「セオリーオープンチェンジ実施にあたっての8つの視点」で関係する取り組み（施策や事業）を点検していきます。  
 今回のワークショップでは、「既にこの視点に関係する目的のために実施している事業」について洗い出し、「これらの事業が目的の達成にどのように寄与しているか」、「さらにどのような改善が見込めるか」といった検討を行い、改善が見込まれる部分については「他の事業と統合できないか」「事業の実施や運営にあたって工夫ができないか」といった視点で、事業の見直しを図ります。  
 さらに、「庁内外の関係者と連携してどんな情報を共有したり事業効率を高めたりできるか」といった体制面での検討もを行います。  
 以下に、より詳しい作業の流れと各工程の概要を示します。

ワークショップでの説明資料（一部抜粋）

### DATA

- 人口 ▶ 17,039人 ※令和5年3月31日住民基本台帳人口
- 高齢化率 ▶ 34.9% ※令和5年3月31日住民基本台帳人口
- 面積 ▶ 99.03 km<sup>2</sup>
- 担当部署 ▶ 福祉課 介護保険係

## 点検・振り返りの「あゆみ」

### 介護保険係の担当がまずはシートを記入してみた

・地域ビジョンや基本目標の見直しを行うには点検ツールが使えるのだと思い、まずは介護保険係の担当がシートを記入してみた。



#### POINT

地域包括ケアシステムを担う  
関係課を丁寧に巻き込み



計画・事業の  
振り返り・検討

### 全ての関係課を回って思いを伝え、点検ワークショップを開催した

- ・計画の基本構想や枠組みを、地域包括ケアシステムの機能性の観点から共有し見直したい、地域包括ケアシステムを担う関係課とともに検討したいという思いを全ての関係課を回って伝えた。
- ・介護保険係が記入したシートをたたき台に議論を行い、議論の結果を反映した修正シートを「議事録」という位置づけで各課に再度配布し、確認してもらった。

### 点検結果を策定委員会や連携先に共有し、分かりやすいと賛同を得た

- ・「将来的にどのような状態を目指したいか」に基づいて活動を整理する社会的インパクトの考え方を説明した上で点検結果を策定委員会や医師会・社協などに共有したところ、「非常に良く、今までより分かりやすくなった」といった反応を得た。

### ロジックモデルで重点領域や各施策を具体化し、計画に反映した

- ・目標ごとに成果指標に関係がある取組を整理し、施策体系を再構築した上で、各施策・事業の具体化はロジックモデルを用いて行った。
- ・個別施策のロジックモデルを地域包括支援センターと社協が話し合っ提案するなど、庁内だけでなく庁外の関係者にも考え方が浸透していった。

## 活用の「きっかけ」

- ・介護保険係の担当者が、EBPMやロジックモデルに関する研修への参加を通じて、検証しやすい計画にしたいという思いを抱いた。
- ・基本目標の評価指標等を見直しをしたがロジックモデルでは難しいと感じていたところ、熊本県から点検ツールについて情報提供があり、セオリーオブチェンジの考え方が生かせると思って取り組んでみた。

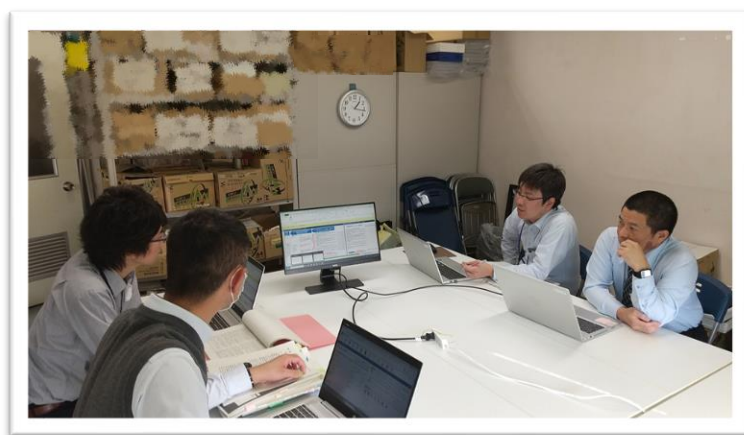
## 「だれ」と取り組んだか

- ・点検ワークショップは地域包括ケアシステムを担う全ての関係課とともに実施。
- ・点検結果は策定委員会や医師会、社会福祉協議会など庁外の関係者にも共有しながら、計画策定に向けた議論を深めていった。

# 北海道登別市

## 新たに着任した職員が、 計画を策定するために必要な視点を点検ツールから学んだ

- ◆ 計画策定年度に、主たる計画策定担当者が全員異動してしまった。新たに着任した職員が計画策定に必要な視点を身に着けるために、点検ツールを活用することになった。
- ◆ 点検ツールへの記入を進める中で、「現場担当者や関係者と協議する場の重要性」や「地域支援事業を一体的な運営に向けた医療介護連携のあり方の検討の必要性」等、目指す姿に向けて必要な視点のヒントを得ることができた。



職員同士での協議



地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた目指すべき姿の実現に向け、第10期計画策定にあたっては、地域住民や関係機関との協議に点検ツールを活用するなど、市全体、地域全体でよりよい登別市を作り上げていけるよう、今後も取り組んでいきたい。

担当者の声



計画策定に向けた目指すべき施策の方向性などの検討にあたり、点検ツールを活用することで、事業ごとの課題や現状について整理することができた。

### DATA

人口	▶ 44,564人	※令和5年9月30日住民基本台帳人口
高齢化率	▶ 37.9%	※令和5年9月30日住民基本台帳人口
面積	▶ 212.21 km <sup>2</sup>	
担当部署	▶ 保健福祉部 高齢・介護グループ、健康長寿グループ	

## 点検・振り返りの「あゆみ」

### 新たに着任した職員が中心となり、 第9期計画策定に向けた準備を進めることに

・第9期介護保険事業計画の策定年度に、計画策定の主な担当者が人事異動により、新たに着任した職員のみで、計画策定に向けた準備を進めることになった。



POINT

新たに着任した職員による  
振り返りに活用

### まずは、担当部署が全シートの記入を試みた

・既存事業の振り返りや課題の洗い出し等に点検ツールが有効だと思い、計画策定を担当する2部署（高齢・介護グループと健康長寿グループ）の担当者が全てのシートに記入してみた。

### 計画策定・事業推進にあたって必要な視点を整理

- ・点検ツールへの記入を通して、「現場担当者や関係者と協議する場の重要性」や「地域支援事業を一体的な運営に向けた医療介護連携のあり方の検討の必要性」に気付いた。
- ・第10期介護保険事業計画の策定や、他部署とコミュニケーションツールとして、点検ツールの視点を活用していきたいと考えている。

## 活用の「きっかけ」

- ・年度替わりの人事異動で、第9期介護保険事業計画の策定を担当する2つの部署の総括主幹・主査が全員異動してしまった。
- ・計画策定に関する知識を習得するため、伴走支援事業に手挙げし、課題の洗い出し等に点検ツールを活用しようと考えた。

## 「だれ」と取り組んだか

- ・新たに着任した高齢・介護グループ、健康長寿グループの担当者により、点検を実施した。



## 都道府県のみなさまへ

介護保険法第5条において、都道府県は、管内市町村の「介護保険事業の運営が健全かつ円滑に行われるように、必要な助言及び適切な援助をしなければならない」と定められています。そのために、都道府県の担当者のみなさまは、計画策定や個別施策・事業の運営の中で、創意工夫しながら、区市町村を支援していることかと存じます。

ただ、市町村ごとに、人口や面積、組織体制、実施している施策・事業等の現況や直面している課題、優先すべき事項等は異なり、市町村への一律的な支援は困難です。

本点検ツールでは、それぞれの市町村がどのような「ビジョン」を持ち、どのような「課題」を感じていて、どのような「優先順位」で取り組んでいきたいと考えているのか、そういった状況を把握することができます。

市町村に対する進捗確認等のヒアリングの際や、都道府県が独自で策定している分析ツールの見直し等に際して、ぜひ本点検ツールを活用いただけますと幸いです。

### 例 熊本県での取り組み



- 熊本県は、計画策定に関する市町村とのヒアリングで点検ツールを取り入れ、試しに2シート記入してもらった。市町村としては、考え方の手順は分かりやすいものの、目標や課題を具体的に書くのが難しい面もあったようだ。
- 市町村はそれぞれ状況や課題が異なり、実情に合わせた伴走支援が必要。本点検ツールを計画担当だけでなく各領域の担当に使ってもらったり、市町村や県庁内の関係部署と話し合う際に活用したいと考えている。

## ■ 点検ツールに関する情報

各地域における点検に役立てて頂くための調査研究事業の成果や介護保険事業（支援）計画の検討をはじめとする、各地域でのこれからの地域づくりの検討に役立てていただけるような関連情報をまとめてお示ししております。

[https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/chk\\_tool/](https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/chk_tool/)



## ■ 活用の手引き

点検ツールの基本的な考え方や、点検ツールを用いた点検の具体的な進め方、ツールを活用するときに各欄にどのように記入すると良いか、どのような情報・データが参考となるかといった、参考情報をご紹介する資料です。

これまでの本調査研究事業での検討経緯に加え、令和4年度調査研究事業で実施したモデル事業での検証結果も踏まえて活用事例なども盛り込んでいます。

点検に参加されるご担当者だけでなく、トップマネジメント層（部局長・部課長級）向けのメッセージも掲載しております。用途に応じて必要部分をご覧ください。

[https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/pdf/service/special/content11/corner113/katsuyonotebiki\\_230414.pdf](https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/pdf/service/special/content11/corner113/katsuyonotebiki_230414.pdf)



## ■ 過去のセミナー動画

2023年8月8日（火）開催  
実施手順と記入例の紹介セミナー

<https://www.youtube.com/watch?v=g01qiizW55w>



2023年6月27日（火）開催  
第9期計画策定に向けた活用セミナー

[https://www.youtube.com/watch?v=XdfikQG\\_rSQ](https://www.youtube.com/watch?v=XdfikQG_rSQ)



2023年4月26日（水）開催  
「効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール」説明会

<https://www.youtube.com/watch?v=rMhoBTmyZic>



点検ツール書き方解説動画

<https://www.youtube.com/watch?v=xiytmSEGxFU>



点検ツール概要解説動画

<https://www.youtube.com/watch?v=RbnDAyXZd4I>



※本調査研究事業は、令和5年度老人保健事業推進費等補助金において実施したものです。

令和5年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業  
地域包括ケアシステムの構築状況の自治体点検ツール（仮称）の活用に関する調査研究

効果的な施策の展開に向けて  
～点検ツールの活用事例集～

令和6年3月

株式会社日本総合研究所  
〒141-0022 東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング  
TEL： 080-1145-7438 FAX： 03-6833-9481